

安全データシート

作成: 1998年 8月20日

改訂: 2023年 4月26日

1. 製品及び会社情報

整理番号 : KI045-06
製品名 : コテツフロアブル
会社名 : クミアイ化学工業株式会社
住所 : 東京都台東区池之端 1-4-26
担当部門 : サステナビリティ推進部 レスポンシブル・ケア推進課
電話番号 : 03-3822-5180
FAX番号 : 03-3823-6830
緊急連絡先 : 平日 午前9時～午後5時 (電話番号03-3822-5180)
推奨用途及び使用上の制限 : 農薬

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

健康に対する有害性
急性毒性(経口) : 区分3
急性毒性(吸入:ミスト) : 区分4
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分2(中枢神経系)
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分2(中枢神経系)

環境に対する有害性
水生環境有害性 短期(急性) : 区分1
水生環境有害性 長期(慢性) : 区分1

上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

- ・飲み込むと有毒
- ・吸入すると有害
- ・臓器の障害のおそれ(中枢神経系)
- ・長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(中枢神経系)
- ・水生生物に非常に強い毒性
- ・長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

- ・医学的な助言が必要なときには、製品容器やラベルを持っていくこと。
- ・子供の手の届かないところに置くこと。
- ・使用前にラベルをよく読むこと。

【安全対策】

- ・取り扱い後はよく洗うこと。
- ・この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- ・屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。
- ・粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- ・環境への放出を避けること。

【応急処置】

- ・飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。
- ・吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。
- ・気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。
- ・漏出物を回収すること。

【保管】

- ・施錠して保管すること。

【廃棄】

- ・内容物、容器を国、都道府県、又は市町村の規則に従って安全に処理する。または、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。

アレルギー反応を起こす可能性がある。含有物:5-クロロ-2-メチル-4-イソチアゾリン-3-オンと2-メチル-2H-イソチアゾール-3-オンの混合物

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別:混合物

化学名/一般名: 4-ブromo-2-(4-クロロフェニル)-1-エトキシメチル-5-トリフルオロメチルピロール-3-カルボニトリル/一般名 クロルフェナピル

成分及び含有量

クロルフェナピル 10%

ホルムアルデヒド・(石油残差の接触改質留分)スルホン化物重合物のナトリウム塩 <5%

5-クロロ-2-メチル-4-イソチアゾリン-3-オンと2-メチル-2H-イソチアゾール-3-オンの混合物 <0.01%

プロパン-1, 2-ジオール <10%

官報公示整理番号:化審法 安衛法

(9)-378 , (5)-5235 5-クロロ-2-メチル-4-イソチアゾリン-3-オンと2-メチル-2H-イソチアゾール-3-オンの混合物

(2)-234 プロパン-1, 2-ジオール

CAS No.: 122453-73-0 / クロルフェナピル

68425-94-5 / ホルムアルデヒド・(石油残差の接触改質留分)スルホン化物重合物のナトリウム塩

55965-84-9 / 5-クロロ-2-メチル-4-イソチアゾリン-3-オンと2-メチル-2H-イソチアゾール-3-オンの混合物

57-55-6 / プロパン-1, 2-ジオール

4. 応急措置

応急措置をする者の保護に必要な注意事項:

救急隊員は自身の安全に注意を払うこと。患者が意識を失いそうになったら、横向き(回復体位)で安静に寝かせ、搬送する。汚れた衣服は直ちに置き替える。

眼に入った場合:

直ちにまぶたを開き流水で15分以上洗い流した後、眼科医の診察を受ける。

皮膚に付着した場合:

直ちに水と石鹸で十分に洗い流し、医師の診察を受ける。中毒の場合、中毒情報センターか処置助言担当の医師に電話し、製品の包装やラベルについて話すこと。

吸入した場合:

安静にし、新鮮な空気のある場所に移動させ、医師の診察を受けること。中毒の場合、中毒情報センターか処置助言担当の医師に電話し、製品の包装やラベルについて話すこと。

飲み込んだ場合:

直ちに口をすすぎ200-300mlの水を飲ませた後、無理に吐かせたりせず医師の診断を受ける。飲み込んだ場合は、直ちに医師の診断を受け、この容器またはラベルを示すこと。中毒情報センターまたは医師の指示がない限り、吐かせないこと。直ちに患者を病院に連れていくこと。

中毒の場合、中毒情報センターか処置助言担当の医師に電話し、製品の包装やラベルについて話すこと。最低 7 日間の医療監視を行うこと。

医師に対する特別な注意事項

症状: 情報、すなわち症状および影響に関する追加情報は、2 章で利用可能な GHS ラベルのフレーズ及び 11 章で利用可能な毒性評価に含まれる。(他の) 症状や影響については現時点で知られていない。中毒症状は数時間又は数日後に現れることがある。

処置: 症状に応じて処置(洗浄・機能回復)を講じる。特に解毒剤なし。

5. 火災時の措置

適切な消火剤: 噴霧水、二酸化炭素、泡、粉末

使ってはならない消火剤: 棒状放水

火災時の特有の危険有害性:

一酸化炭素、二酸化炭素、臭化水素、塩化水素、フッ化水素、窒素酸化物、硫黄酸化物、シリカ化合物、ハロゲン化合物、アルミニウム化合物。火災の場合、前述の物質/物質グループが放出される可能性がある。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置:

自給式呼吸器および耐薬品性保護衣を着用すること。

追加情報:

汚染された消火用水を別途回収すること。下水または廃水処理施設に流さないこと。汚染された消火廃水は法令に従って適切に処分する。火災および/または爆発の場合に、ヒュームを吸入しないこと。火に暴露された容器は噴霧水で冷却した状態に保つこと。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:

蒸気/スプレーを吸入しないこと。保護具を着用する。皮膚、眼、衣服への接触を避ける。

環境に対する注意事項:

排水溝等に流出させない。土壌中に放出しないこと。

封じ込め及び浄化の方法及び機材:

少量の場合: 吸着剤に吸収させ回収し処分する(例: 砂、おが屑、珪藻土)。

大量の場合: せき止める。ポンプで容器に回収する。

法令に従って吸着剤を廃棄すること。廃棄物を適切な容器に集めること。容器は、ラベルの貼付および密封が可能な容器とする。水および洗剤を用いて、汚染された床および物質を完全に浄化すること。環境法令を遵守すること。適切な保護装置をつけること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

適切に保管し取り扱えば、特別な対策は必要なし。作業場の換気を十分に行う。使用時には飲食または喫煙をしないこと。休憩前とシフトの終わりに手や顔を洗うこと。飲食場所に入る前に、汚れた衣服や保護具は脱ぐこと。

安全取扱注意事項: 注意事項は特になし。不燃性である。爆発性なし。

保管

食品、動物飼料から隔離する。

保管条件に関する追加情報: 熱から離して保管すること。直射日光を避ける。

保管安定性

保管期間: 60 月

次の温度以下にならないように保護すること: 0°C

本品は限界温度以下では結晶化する可能性がある。

次の温度以上にならないように保護すること: 40°C

もし、物質/製品を指示温度以上に長期間保管すると製品特性が変化することがある。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度: クロルフェナピル 0.3 mg/m³ (TWA)

保護具

呼吸用保護具:

低濃度において、または短時間有効な適切な呼吸保護具: 有機、無機、酸性無機、アルカリ性化合物及び有毒粒子のガス/蒸気用複合フィルターEN14387 タイプ ABEK-P3

手の保護具:

長時間にわたる直接接触でも問題ない素材でできた耐薬品性保護手袋 (EN ISO 374-1) (保護指針 6 に準ずることが望ましい。EN ISO 374-1 によると、透過時間は 480 分以上であること): ニトリルゴム (0.4mm)、クロロプレンゴム (0.5mm)、ブチルゴム (0.7mm) など。

眼の保護具:

サイドシールド付き安全眼鏡 (フレームゴーグル) (例 EN 166)

皮膚及び身体の保護具:

作業および予想暴露量に基づいて、保護具を選択すること。前掛け、保護靴、耐薬品性保護衣等 (飛散の場合は、EN 14605 に従い、粉塵の場合は、EN ISO 13982 に従う。)

一般的な安全及び衛生対策:

最終消費者の手に渡る農薬を取り扱う際には、使用説明書の保護具に関する記述を適用すること。上下一体型作業衣の着用が望ましい。作業服は、他の物と分けて保管すること。食物、飲料および動物用飼料から離して保管すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観等	: 類白色粘稠懸濁液体
臭い	: かすかな臭い、ビターアーモンド様の臭い
臭いのしきい値	: 吸入による有害性のため、決められていない。
pH	: 約 6-8 (1%(m), 21°C)
凝固点	: 約 0°C 情報は溶媒に適用される
沸点	: 約 100°C 情報は溶媒に適用される
引火点	: 不燃性である。
蒸発率	: 適用せず
可燃性(固体/ガス)	: 適用せず
爆発下限界	: この製品に関する当社の経験と組成に関する知識の結果、この製品が適切に、また意図された用途に使用される限り、どのような危険性も考えられない。
爆発上限界	: この製品に関する当社の経験と組成に関する知識の結果、この製品が適切に、また意図された用途に使用される限り、どのような危険性も考えられない。
自然発火温度	: 約 520°C (EU 指令 92/69/EEC,A.15)
熱分解	: 252°C, 240 kJ/kg (DSC(OECD113)) 310°C, 130 kJ/kg (DSC(OECD113)) 450°C, > 90 kJ/kg (DSC(OECD113)) 国連輸送規則クラス 4.1 に従い、自己分解性物質ではない。
SADT	: > 75°C Heat accumulation / Dewar 500 ml (SADT,UN-Test H.4 28.4.4)
爆発危険有害事項	: 爆発性なし。
火災を引き起こす性質	: 火災伝播性はない。(EU 指令 2004/73/EC,A.21)
蒸気圧	: 約 23.3 hPa (20°C) 情報は溶媒に適用される
密度	: 約 1.07g/cm ³ (20°C) (OECD テストガイドライン 109)
相対ガス密度(空気)	: 適用せず
水に対する溶解性	: 分散可能

n-オクタノール／水分配係数(log 値) :適用せず
粘度 :約 68 mPa・s(20°C,100 1/s) (OECD 114)

10. 安定性及び反応性

避けるべき条件

安全データシートの第7項の取扱い及び保管上の注意を参照すること。

熱分解:252°C, 240 kJ/kg (DSC(OECD113))

熱分解:310°C, 130 kJ/kg (DSC(OECD113))

熱分解:450°C, > 90 kJ/kg (DSC(OECD113))

熱分解:国連輸送規則クラス 4.1 に従い、自己分解性物質ではない。

混触危険物質:

強酸、強塩基、強酸化剤

危険有害な分解生成物:

指示通りの貯蔵と取扱い条件下では有害な反応は起こさない。

危険分解物:

通常のと扱い条件下で危険分解物なし。

化学安定性:

製品は取扱説明書に従って貯蔵すれば安定である。

反応性:

指示通りの貯蔵と取扱い条件下では有害な反応は起こさない。

11. 有害性情報

ばく露経路

急性毒性(経口)

実験または計算によるデータ:

マウス LD₅₀ > 50 - < 300 mg/kg

本毒性データは活性成分に基づくものである。ヒトの中毒事故を予防するため、同じ製品LD₅₀が適用される。

急性毒性(吸入):

ラット LC₅₀ 2.62 mg/l (4時間) (OECD テストガイドライン 403)

急性毒性(経皮):

ラット LD₅₀ > 5,000mg/kg (OECD テストガイドライン 402)

死亡なし

急性毒性の評価:

単回の経口摂取の後、顕著な毒性がある。短期間の吸入により中程度の毒性。単回の皮膚付着であれば、実質上毒性はなし。

記載物質に関する情報: クロルフェナピル

急性毒性(経口)

実験または計算によるデータ:

マウス LD₅₀ > 50 - < 300 mg/kg (OECD テストガイドライン 401)

症状

情報、すなわち症状および影響に関する追加情報は、2章で利用可能な GHS ラベルのフレーズ及び 11章で利用可能な毒性評価に含まれる。(他の)症状や影響については現時点で知られていない。

中毒症状は数時間又は数日後に現れることがある。

刺激性

刺激性作用の評価:

皮膚刺激性なし。眼刺激性なし。

実験または計算によるデータ:

皮膚腐食性/刺激性 ウサギ (OECD テストガイドライン 404)

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 ウサギ (OECD テストガイドライン 405)

呼吸器感作性又は皮膚感作性

感作性の評価:

皮膚感作の可能性に関する証拠はない。

実験または計算によるデータ:

マウスの局所リンパ節試験(LLNA) マウス

生殖細胞変異原性

変異原性の評価:

本品は未試験である。本記述は、各成分の特性に基づくものである。変異原性試験では遺伝毒性の可能性は認められなかった。

発がん性

発がん性の評価:

本品は未試験である。本記述は、各成分の特性に基づくものである。各種の動物実験の結果は、発癌効果の兆候を示さなかった。

生殖毒性

生殖毒性の評価:

本品は未試験である。本記述は、各成分の特性に基づくものである。動物実験の結果から、生殖能力低下は認められなかった。

発生毒性

催奇形性の評価:

本品は未試験である。本記述は、各成分の特性に基づくものである。動物実験において、母体毒性を示さない濃度では生殖能力の低下は認められなかった。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

単回暴露は、臓器に関係する毒性効果を持つ可能性がある。

標的臓器: 中枢神経系

注意: 本品は未試験である。本記述は、各成分の特性に基づくものである。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

反復投与毒性の評価:

本品は未試験である。本記述は、各成分の特性に基づくものである。

記載物質に関する情報: クロルフェナピル

反復投与毒性の評価:

反復暴露により、特定の臓器に影響する可能性がある。中枢神経系に影響を与える。

記載物質に関する情報: 5-クロロ-2-メチル-4-イソチアゾリン-3-オンと2-メチル-2H-イソチアゾール-3-オンの混合物

反復投与毒性の評価:

反復投与後にみられる顕著な影響は局所の刺激である。入手可能なデータに基づくと、分類基準に該当しない。

誤えん有害性

予測される吸入危険性はない。

その他該当する毒性情報

摂取後の報告されたヒトの健康への影響:経口摂取直後の症状には、吐き気、嘔吐、発汗、腹痛。数日から10から14日遅れて現れるその後の症状には、眠気、頻脈、頻脈または不整脈、高血圧、発熱、発汗、筋肉のけいれん、筋肉のこわばり、手足の脱力(時には麻痺につながる)、肝臓および腎機能障害、膵炎、および突然の意識障害とそれに続く昏睡および心停止。誤用は致命的となる可能性がある。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生生物に対する毒性の評価:

長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

魚類	:コイ LC ₅₀ 0.463 mg/l (96時間)
甲殻類	:オオミジンコ EC ₅₀ 0.0407 mg/l (48時間)
藻類	:緑藻 EC ₅₀ 126 mg/l (72時間)
	緑藻 無影響濃度 0.772 mg/l (72時間)

記載物質に関する情報:クロルフェナピル

魚類	:ニジマス 無影響濃度 0.003678 mg/l (93日)
甲殻類	:ミシッドシュリンプ 無影響濃度 0.000172 mg/l (28日)

移動性

環境区分間の輸送評価:

本品は未試験である。本記述は、各成分の特性に基づくものである。

記載物質に関する情報:クロルフェナピル

環境区分間の輸送評価:

土壌曝露後には土壌の固形粒子に吸着する可能性が高いため、地下水の汚染は生じないものと思われる。

残留性・分解性

生分解性及び除去率の評価(水中環境):

本品は未試験である。本記述は、各成分の特性に基づくものである。

記載物質に関する情報:クロルフェナピル

生分解性及び除去率の評価(水中環境):

容易に生分解性されない(OECD 基準による)

生体蓄積性

生体蓄積性の可能性評価:

本品は未試験である。本記述は、各成分の特性に基づくものである。

記載物質に関する情報:クロルフェナピル

生体蓄積性:

生物濃縮係数:116, コイ

生体蓄積性はないと考えられる。

追加情報

その他の環境毒性情報:

蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にかからないようにすること。

ミツバチに対して影響があるので、ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。

養蜂が行われている地区では都道府県の畜産部局と連絡し、ミツバチの危害防止に努めること。

水産動植物に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。

13. 廃棄上の注意

使用量に合わせて薬液を調製し、使いきる。容器の洗浄水等は河川に流さない。

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。洗浄水等は、凝集沈殿、活性汚泥などの処理により清浄にしてから排出する。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後処分する。

14. 輸送上の注意

移送取扱いは丁寧に行う。

輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。車輛、船舶には保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を備える他、緊急時の処理に必要な消火器、工具などを備えておく。

国連分類 :クラス6. 1(毒物類)容器等級Ⅲ

国連番号 :2902(殺虫剤、液体、有毒)

国内規制

海上規制情報 :船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報 :航空法の規定に従う。

陸上規制情報 :毒物及び劇物取締法、道路法の規定に従う。

15. 適用法令

農薬取締法	:登録番号 第19185号
消防法	:非危険物
労働安全衛生法	:非該当
化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)	
	: (2023 年 4 月 1 日以降)
	第一種指定化学物質 722 クロルフェナピル
毒物劇物取締法	:政令第2条第1の32号 劇物 クロルフェナピル

16. その他の情報

記載内容は、現時点で入手できた資料・情報に基づいて作成しておりますが、危険・有害性等に関して、いかなる保証をなすものではありません。注意事項については通常の取り扱いを対象としたものであり、特別な取り扱いをする場合は、用途・用法に適した安全対策を講じて下さい。危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取り扱いには十分注意してください。使用に当たっては、ラベルの注意事項を良く読んで下さい。

- 引用文献: 1) JIS Z 7252:2019 GHSに基づく化学品の分類方法
2) GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針
2019年6月 社団法人 日本化学工業協会
3) 農薬中毒の症状と治療法 第19版 2022年4月 農薬工業会
4) GHS文書 改訂第6版(2015年)
5) BASF ジャパン(株) コテツフロアブル 安全データシート
(2023年3月23日改訂版)

作成部署以外の連絡先

(財団法人)日本中毒情報センター

大阪 (年中無休、24時間)	一般市民向け相談電話(無料)	072-727-2499
	医療機関専用有料電話	072-726-9923
つくば(毎日9時~21時)	一般市民向け相談電話(無料)	029-852-9999
	医療機関専用有料電話	029-851-9999

※ ただし、上記の何れも通話料は相談者の負担となります。

※ 弊社製品に関する問い合わせにつきましては、医療機関専用有料電話の利用料(1件 2,000円)は弊社が負担いたします。